

熱中症による救急搬送の状況及び予防啓発の取組について

救急企画室

1 はじめに

消防庁では、平成20年度から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員の調査を行っており、調査開始以降最多の救急搬送人員を記録した平成30年には全国で約9万人以上の方が熱中症により救急搬送されています。調査は、例年5月1日を含む週の月曜日から調査を開始しており、今年度は、4月25日から開始し、8月7日までに52,754人(※速報値)の方が熱中症で救急搬送されました。今年、梅雨明けが早かったこともあり、6月の調査を開始した平成22年以降、6月としての搬送人員が過去最高を記録し(15,969人確定値)、7月以降も暑い日が続いたため、例年と比較しても多くの方が熱中症により搬送されています。

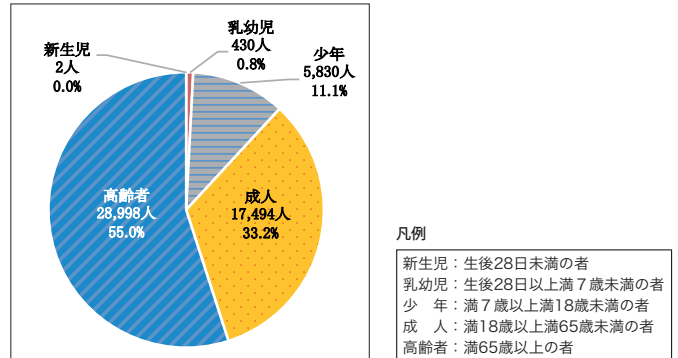
気象庁によると、今後も暑い日が続くことが予想されるため、熱中症対策を十分に行いましょう。

2 熱中症による救急搬送状況

① 年齢区分ごとの救急搬送人員(図1)

4月25日から8月7日までの熱中症による救急搬送人員の合計52,754人のうち、高齢者が28,998人(55.0%)と最も多く、次いで成人17,494人(33.2%)、少年5,830人(11.1%)などとなっています。約6割を占める高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

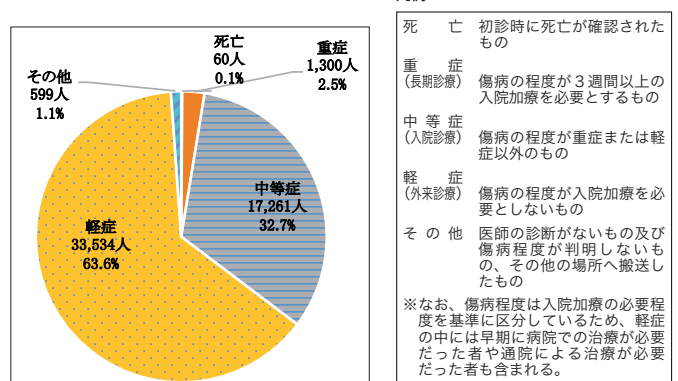
図1 年齢区分別(構成比)
令和4年 総搬送人員52,754人



② 傷病程度ごとの救急搬送人員(図2)

4月25日から8月7日までの熱中症による救急搬送人員の合計52,754人のうち、軽症が33,534人(63.6%)と最も多く、次いで中等症17,261人(32.7%)、重症1,300人(2.5%)、死亡60人(0.1%)などとなっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

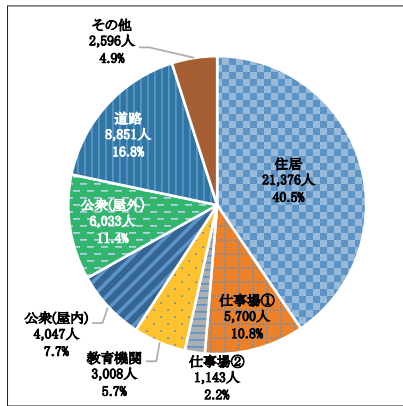
図2 初診時における傷病程度別
令和4年 総搬送人員52,754人



③ 発生場所ごとの救急搬送人員(図3)

4月25日から8月7日までの熱中症による救急搬送人員の合計52,754人のうち、住居が21,376人(40.5%)と最も多く、次いで道路8,851人(16.8%)、公衆出入場所(屋外)6,033人(11.4%)、仕事場①5,700人(10.8%)、公衆出入場所(屋内)4,047人(7.7%)などとなっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。

図3 発生場所別（構成比）
令和4年 総搬送人員52,754人



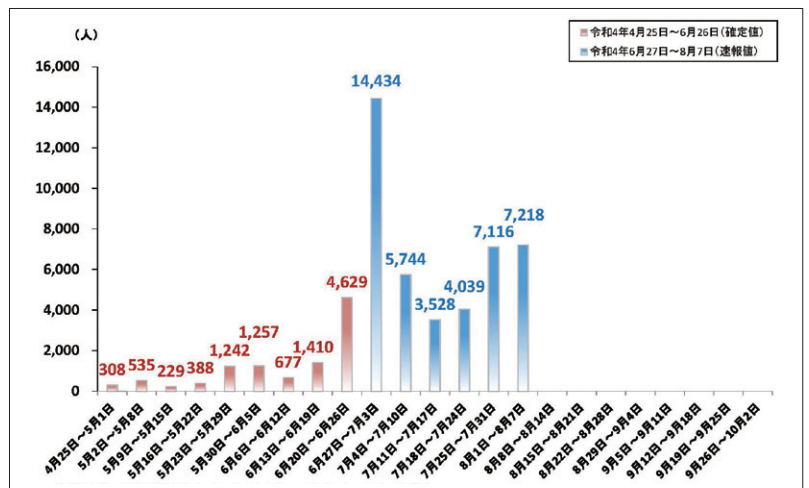
凡例

住居	(敷地内全ての場所を含む)
仕事場①	(道路工事現場、工場、作業所等)
仕事場②	(田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)
教育機関	(幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)
公衆(屋内)	不特定者が出入りする場所の屋内部分 (劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)
公衆(屋外)	不特定者が出入りする場所の屋外部分 (競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(野外ホーム)等)
道路	(一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)
その他	(上記に該当しない項目)

⑤ 週別の推移 (図5)

救急搬送人員は4月25日から200～1,400人前後で推移していましたが、6月20日の週から4,600人以上に増加しています。また、全国的に記録的な早さで梅雨明けした6月27日の週は14,434人となり、以降3,500～7,200人前後で推移しています。

図5 令和4年の熱中症による救急搬送状況 (週別推移)

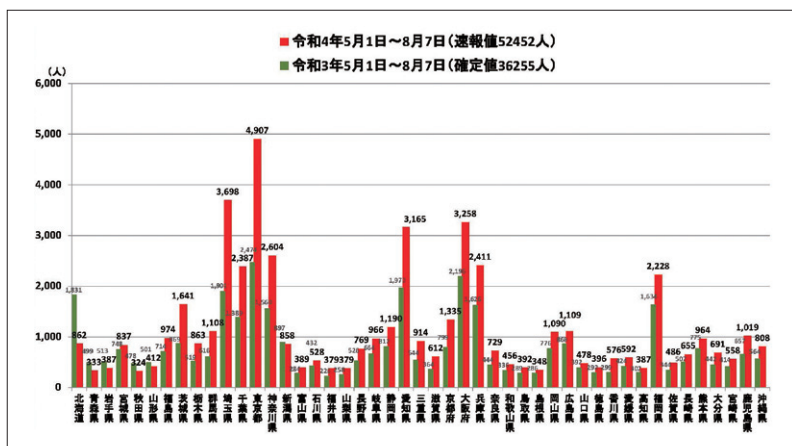


※速報値 (青) の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

④ 都道府県別の合計 (図4)

5月1日から8月7日までの熱中症による救急搬送人員の合計52,452人のうち、東京都が4,907人と最も多く、次いで埼玉県3,698人、大阪府3,258人、愛知県3,165人、神奈川県2,604人となっています。また、昨年度と比較(5月1日から8月7日)すると、16,197人の増加(+45%)となりました。

図4 令和4年 都道府県別熱中症による救急搬送人員
前年との比較 (累計：5月1日から8月7日)



※速報値 (赤) の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

3 全国消防イメージキャラクター「消太」を活用した熱中症予防広報の実施

消防庁では、熱中症予防啓発として従来から、熱中症による救急搬送人員の調査と公表、「リーフレット」や「ポスター」の作成、消防庁ホームページやツイッターによる情報発信などを通じ、住民の皆様に広く注意喚起を図るとともに、全国の消防本部が行う予防啓発活動を支援してきました。

今年度は、SNSや、街中のデジタルサイネージによる情報発信などを想定した短時間の予防啓発動画を作成し、消防庁ホームページにて公開しました。また、作成した動画をさらに普及、拡散させるため、動画にアクセスできるQRコードを記載した熱中症予防啓発ポスターを作成し、全国の消防本部へ配布し、熱中症予防啓発の強化に取り組むよう呼びかけています。



【ポスター】



【動画】

4 熱中症予防のポイント

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。また、従前からの予防に加え、「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントとして、以下の項目に心がけて下さい。

- ・涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けましょう。
- ・のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょう。
- ・部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。また、こまめに換気をしましょう。
- ・熱中症警戒アラート発令中は外出をできるだけ控え暑さを避けましょう。
- ・屋外では、人との距離（2 m以上を目安）が確保できる場合や、距離が確保できなくても、会話をほとんど行わない場合は、マスクを外しましょう。

【参考】熱中症予防情報サイト 普及啓発資料（環境省）

https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_pr.php

5 おわりに

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症になりやすいとされる高齢者や子供を守ることができます。

消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、引き続き熱中症予防啓発に努めていきます。

消防庁熱中症情報

https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。

問い合わせ先

消防庁救急企画室
TEL: 03-5253-7529